



2018年度

決算説明会資料

アイペット損害保険株式会社

2019年5月9日

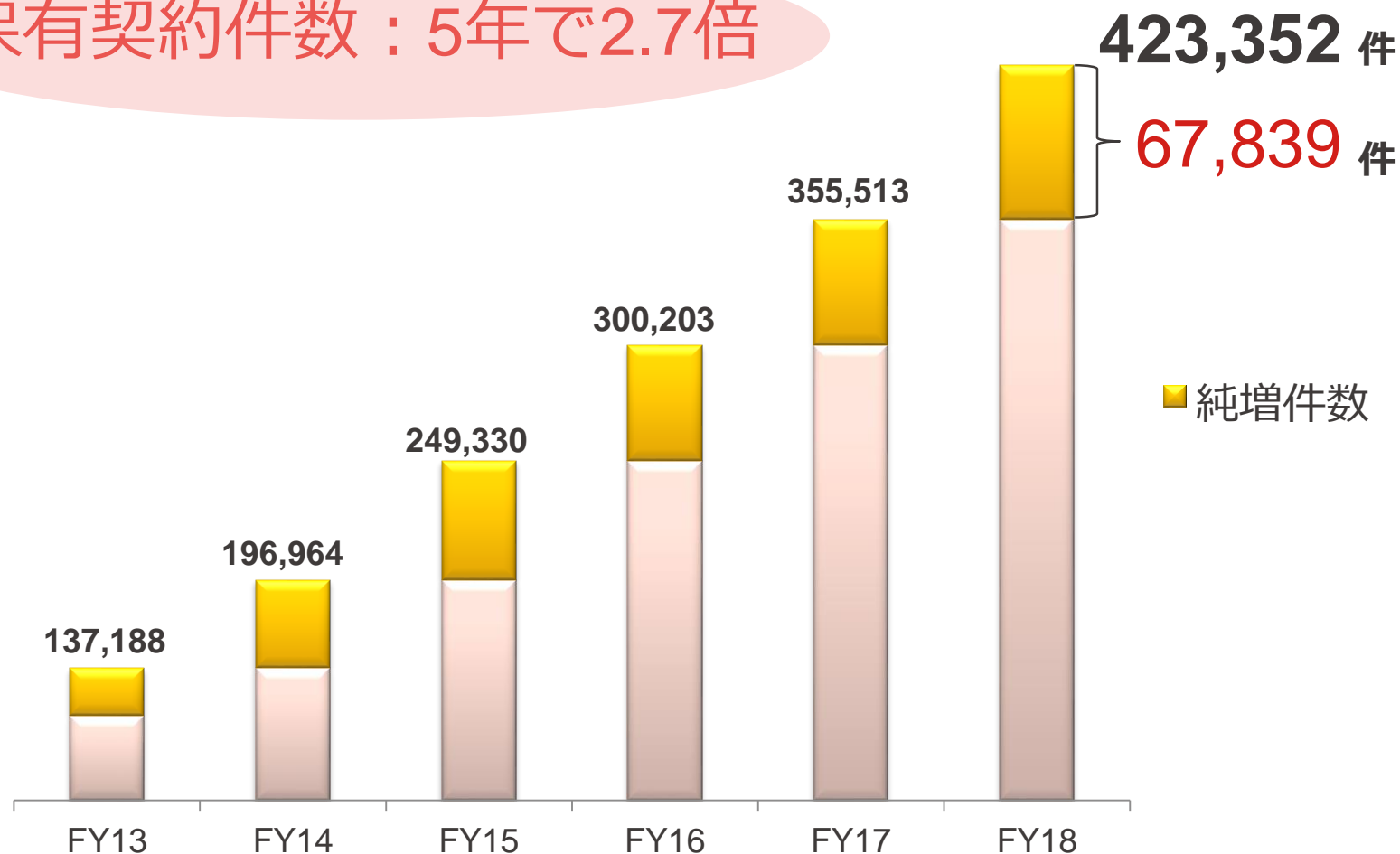
決算ハイライト

当社は、日本の会計基準（J-GAAP）の他に、経営管理指標（Non-GAAP）にて経営成績の開示を行っております。

当社は、Non-GAAP指標を重要な指標と考えております。詳細はAPPENDIXおよび決算短信をご参照ください。

保有契約純増件数 ペット保険会社で1位^{*}

保有契約件数：5年で2.7倍



* 当社推計

経常収益：**21.8%増**

122億円 → 149億円

当期純利益：**大幅な黒字転換**

▲0.8億円 → 9.6億円

調整後当期純利益：**2.6倍増**

3.1億円 → 8.2億円

※参考：J-GAAP 当期純利益 → 前期比 **2,521%増**

既存チャネル・・・順調に拡大し、新契約が大きく伸展

ペットショップチャネル ➡ 拠点開設・商品拡充

インターネットチャネル ➡ 従来より強み

新チャネル・・・将来成長の布石となる業務提携を基本合意

新チャネル ➡ 第一生命グループとの
業務提携*

* 上記基本合意を受けて2019年4月1日に業務提携基本契約書を締結しました。具体的な施策は構築中であり、収益影響を含め今後公表すべき事項が生じた場合には、速やかに開示します。

収益指標

※未経過保険料方式 (Non-GAAP)

(単位：百万円)

	FY17	FY18	前期比
経常収益	12,268	14,941	+21.8%
経常利益	444	453	+ 2.1%
当期純利益	▲81	963	—
調整後経常利益	835	929	+11.1%
調整後当期純利益	309	815	+163.6%

コンバインド・レシオ

正味保険料ベース 88.8% (損害率42.4%、事業費率46.4%)
 既経過保険料ベース 94.1% (損害率45.5%、事業費率48.6%)

安全性指標

ソルベンシー・マージン比率 381.4% (前年度末比+96.6pt)

金額：百万円、件数：件

	予算	実績	予実差異	
			金額・数量	比率 (%)
経常収益	14,509	14,941	432	3.0
調整後経常利益	990	929	▲61	▲6.2
調整後当期純利益	687	815	128	18.7
保有契約件数	410,000	423,352	13,352	3.3

ポイント

新規契約件数が、予算比で平均約1,000件/月上振れ
継続率も、予算比で若干上振れ

新規契約件数が好調に推移した結果、販売手数料・広告宣伝費が予算を超過し、責任準備金も約2億円増

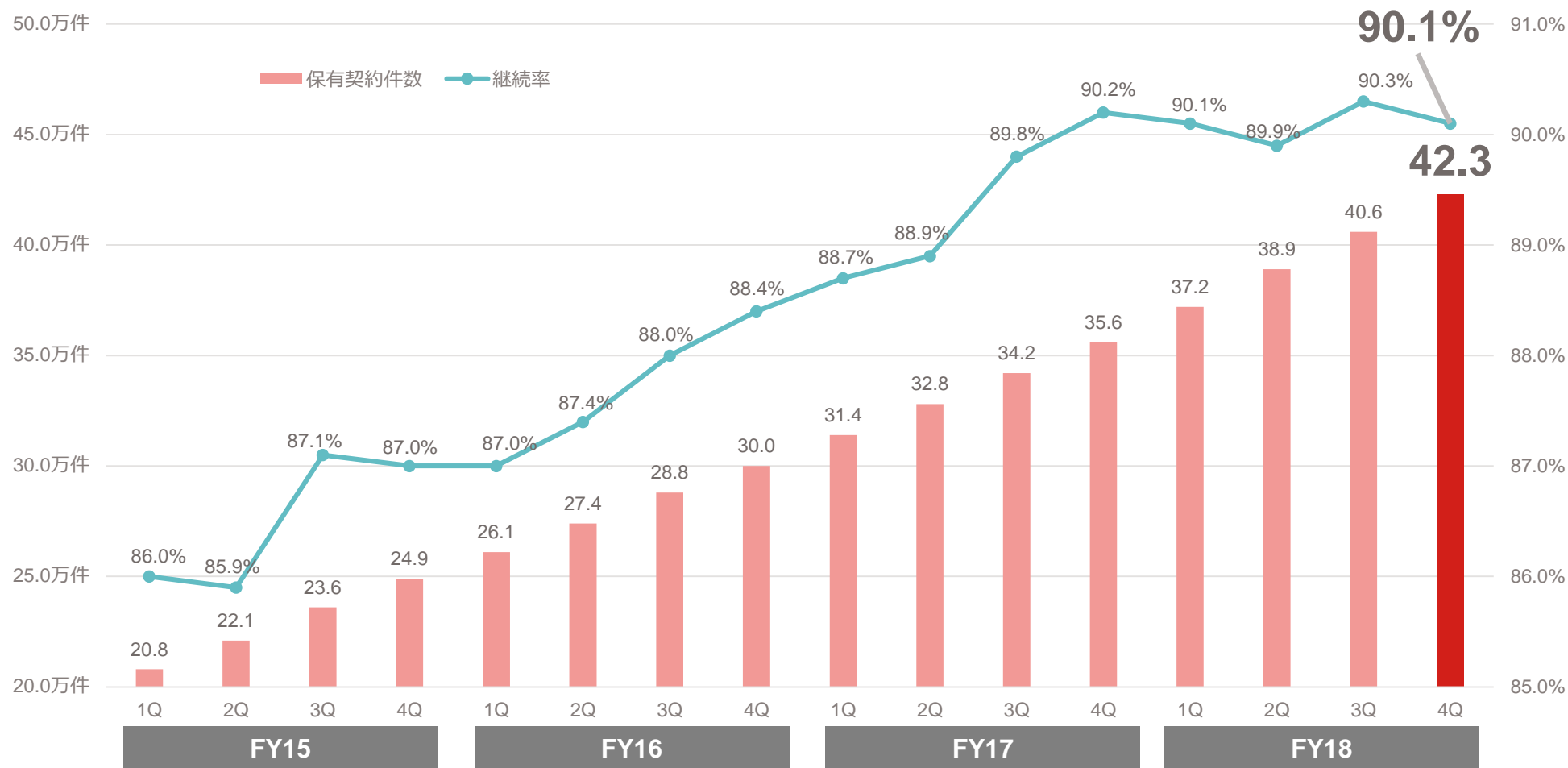
「特別利益計上に関するお知らせ」（3月28日開示）に記載の通り、和解金170百万円計上により、利益押上効果

新規と継続合わせた契約件数が、予算比で、平均1,112件/月上振れ

業績の推移について

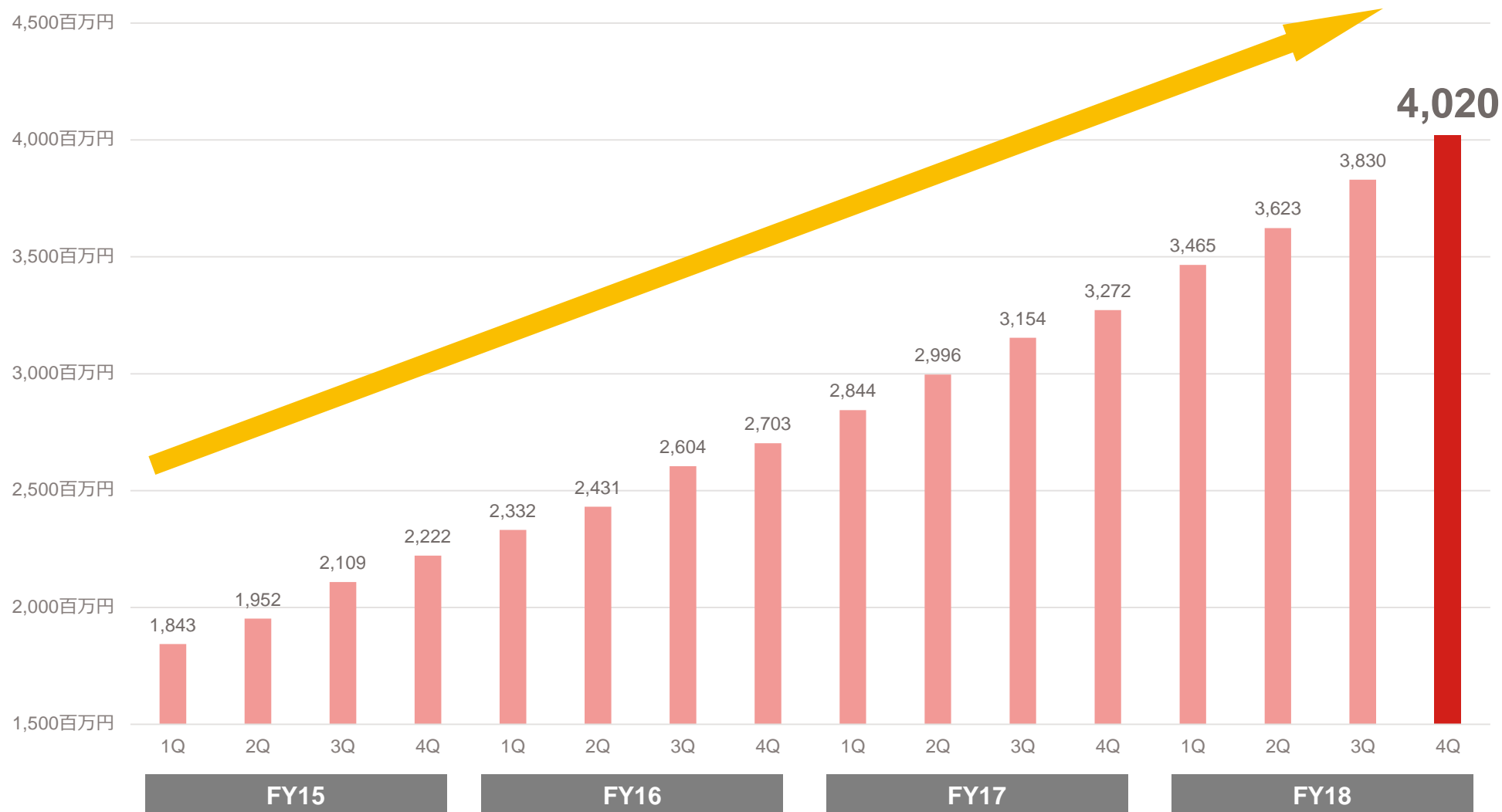


- 保有契約件数は順調な拡大を続け2019年3月末日で **42.3万件** を突破
純増件数は当期 **1Q～4Qすべての四半期** で、ペット保険会社で **第1位** を記録*
- 継続率は引続き **90%** の高水準をキープ°

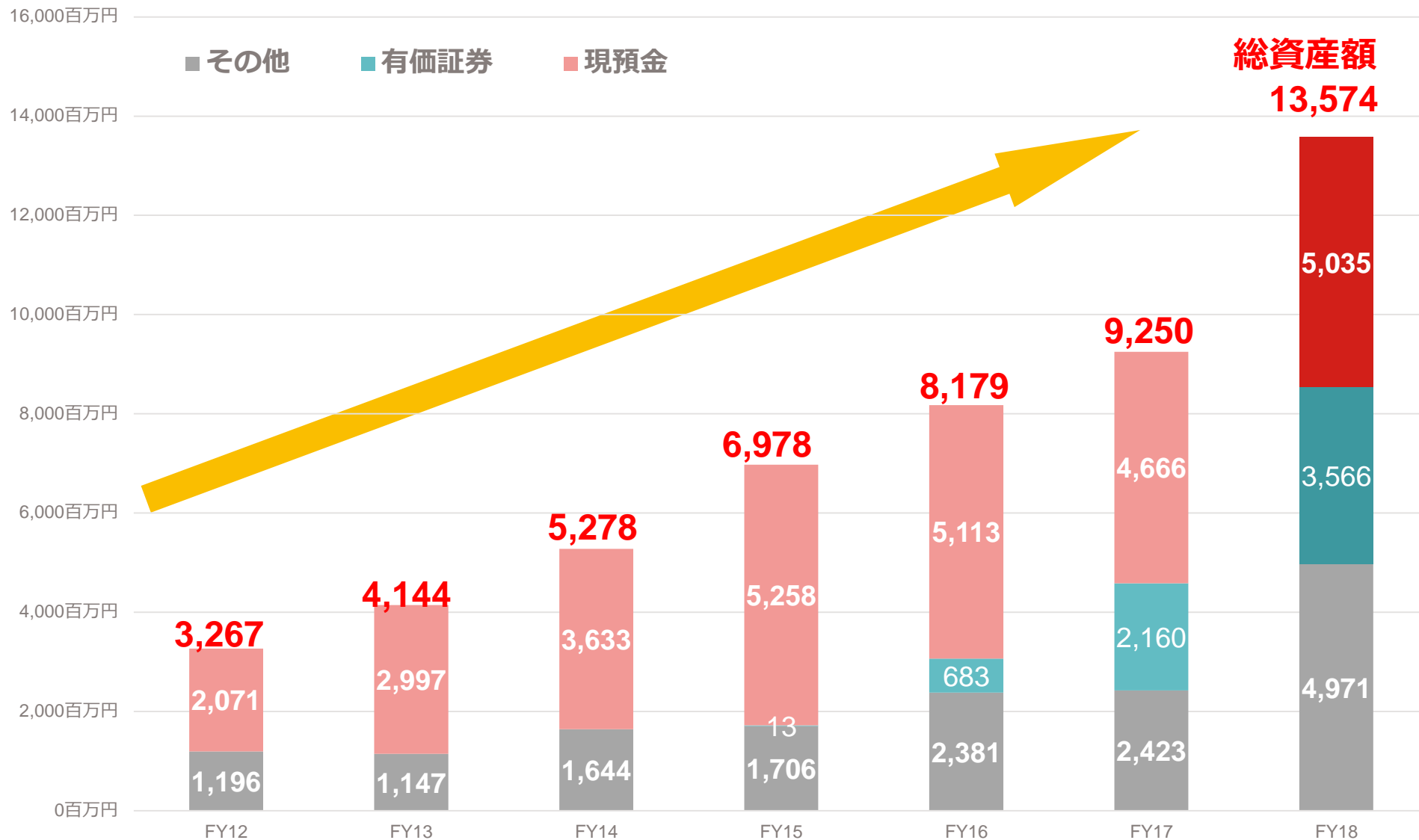


* 当社推計

- ・ 経常収益は保有契約件数の増加と共に、順調に増加

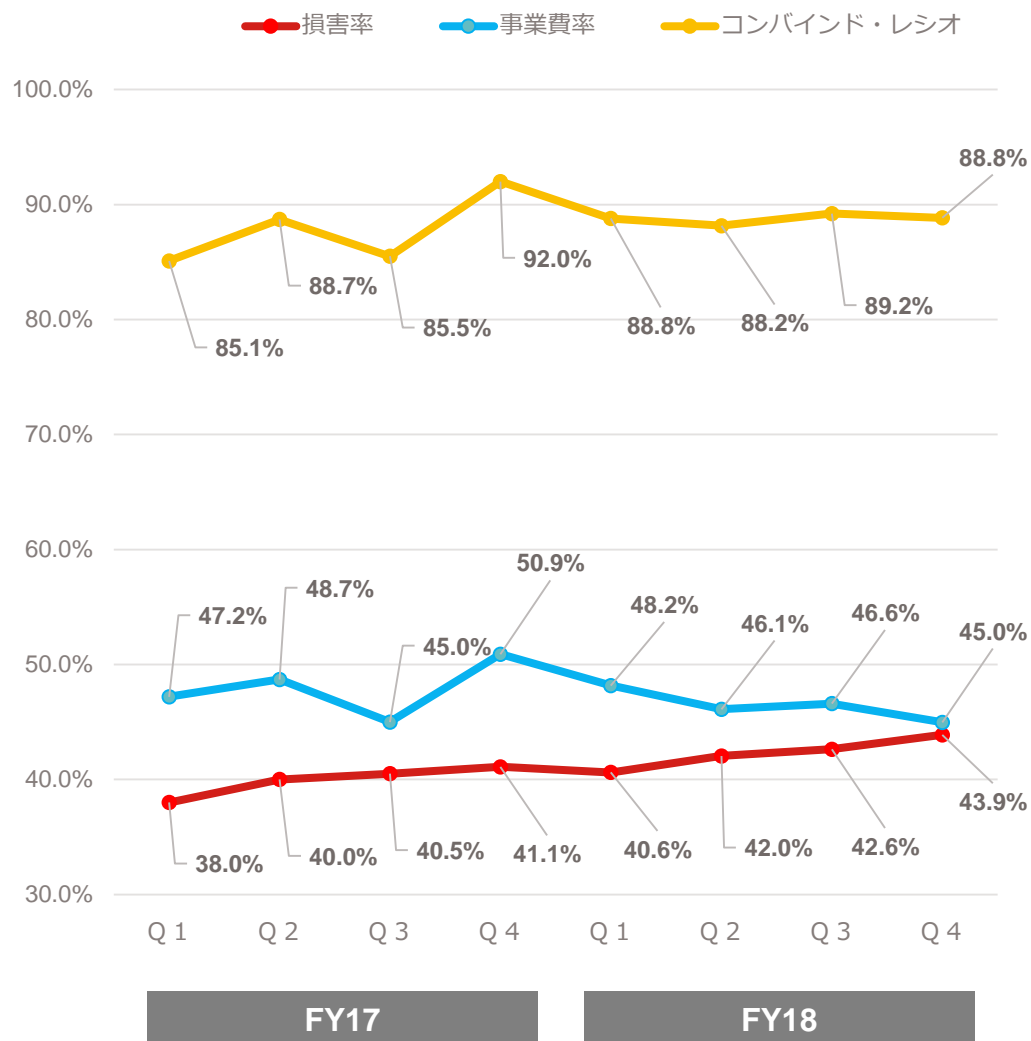


- ・ 安定的なインカムゲインを得るため、有価証券を中心とした運用を進めている。

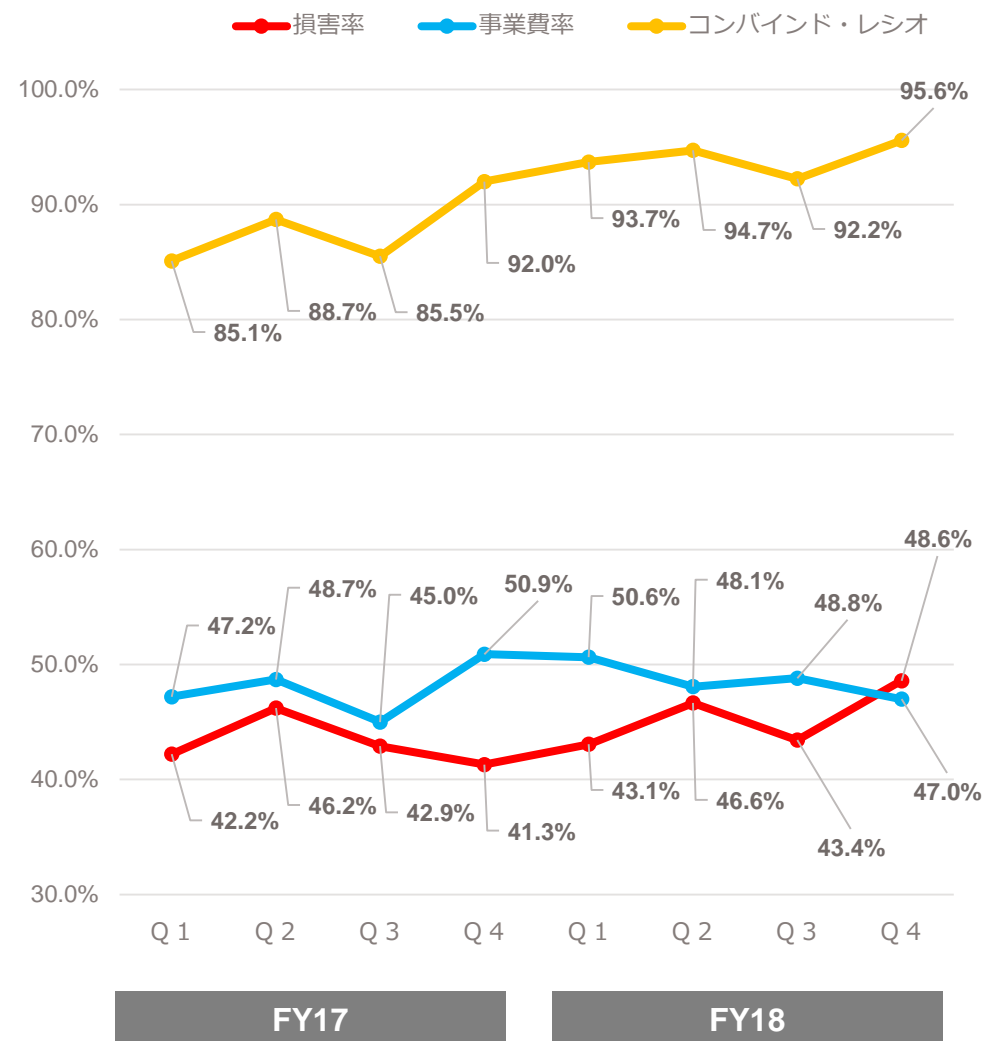


*比較のため、FY12、FY13は総資産額から保険業法第113条繰延資産を控除

正味ベース



既経過ベース





Non-GAAPベースの業績

(単位：百万円)	FY17	FY18	前期比
経常収益	12,268	14,941	+21.8%
保険引受収益	12,212	14,831	+21.5%
資産運用収益	50	60	+20.3%
その他経常収益	6	49	+704.9%
経常費用	11,823	14,487	22.5%
保険引受費用	7,100	9,243	+30.2%
資産運用費用	—	15	—
営業費及び一般管理費	4,713	5,224	+10.8%
その他経常費用	9	4	▲51.9%
経常利益	444	453	2.1%
特別利益	—	170	—
特別損失	258	3	▲98.5%
税引前当期純利益	186	619	+233.0%
法人税等	267	▲343	—
当期純利益	▲81	963	—

主な勘定科目の増減理由

保有契約件数の拡大に伴い順調に増加

利息配当金収入 + 60百万円

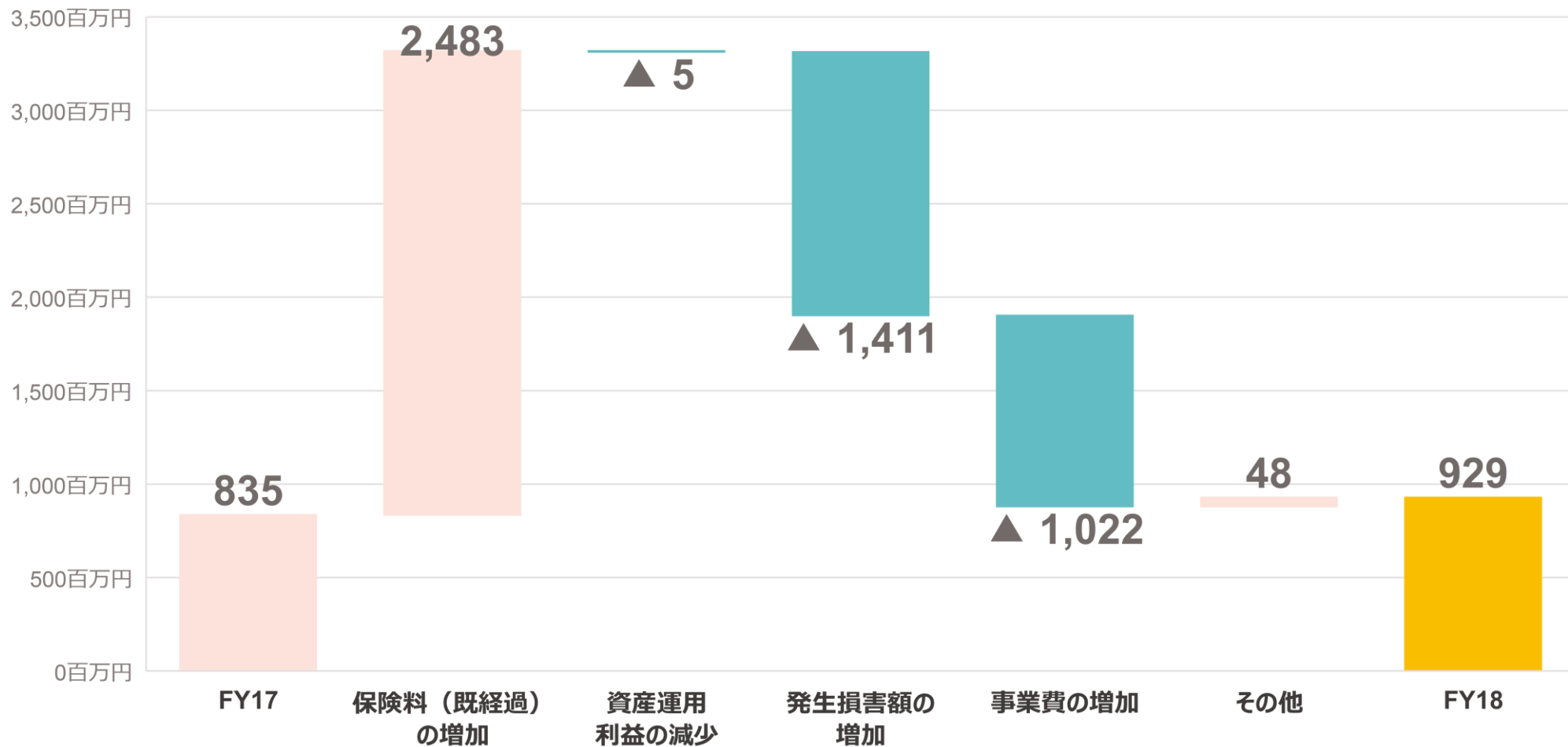
正味支払保険金 5,788百万円
(前期比+28.0%)
諸手数料及び集金費 1,658百万円
(前期比+44.6%)
責任準備金繰入額 1,133百万円
(前期比+24.0%)

前期特損システム開発に関して当時の委託先から受領した和解金170百万円を計上

前期に基幹システム開発遅延に伴う特別損失(256百万円)を計上

税効果会計の区分変更により、異常危険準備金に対する繰延税金資産を計上

保険料の伸展により、新契約獲得にかかる営業費用が事業費の増加として短期的に利益を押し下げる結果となったため、増益幅は93百万円となった。



J-GAAPベースの業績



(単位 : 百万円)	FY17	FY18	前期比
経常収益	12,268	14,941	+21.8%
保険引受収益	12,212	14,831	+21.5%
資産運用収益	50	60	+20.3%
その他経常収益	6	49	+704.9%
経常費用	11,706	14,643	+25.1%
保険引受費用	6,983	9,398	+34.6%
資産運用費用	—	15	—
営業費及び一般管理費	4,713	5,224	+10.8%
その他経常費用	9	4	▲51.9%
経常利益	561	297	▲47.0%
特別利益	—	170	—
特別損失	258	3	▲98.5%
税引前当期純利益	303	464	+52.9%
法人税等	271	▲387	—
当期純利益	32	851	+2,521.2%

(単位 : 百万円)

	FY17	FY18	前期比
資産合計	9,250	13,574	46.7%
現金及び預貯金	4,666	5,035	7.9%
有価証券	2,160	3,566	65.1%
繰延税金資産	84	834	892.8%
その他資産	2,339	4,136	76.9%
負債合計	6,347	8,237	29.8%
保険契約準備金	5,560	7,019	26.2%
うち支払準備金	794	963	21.2%
うち責任準備金	4,766	6,056	27.1%
その他負債	786	1,217	54.9%
純資産	2,902	5,336	83.8%
資本金	3,315	4,097	23.6%

主な勘定科目の増減理由

資産運用の拡大に伴う増加

税効果会計の区分変更に伴い、異常危険準備金に係る繰延税金資産を計上

ソフトウェア仮勘定 1,252百万円
(+ 960百万円)
未収保険料・未収金 1,794百万円
(+ 335百万円)

初年度収支残 3,832百万円
(+ 814百万円)
異常危険準備金 2,223百万円
(+ 475百万円)

未払法人税等 384百万円
(+ 333百万円)
前期末繰越欠損金の期限切れによるもの

税効果会計の区分変更により、異常危険準備金に対する繰延税金資産を計上

2019年度業績予想

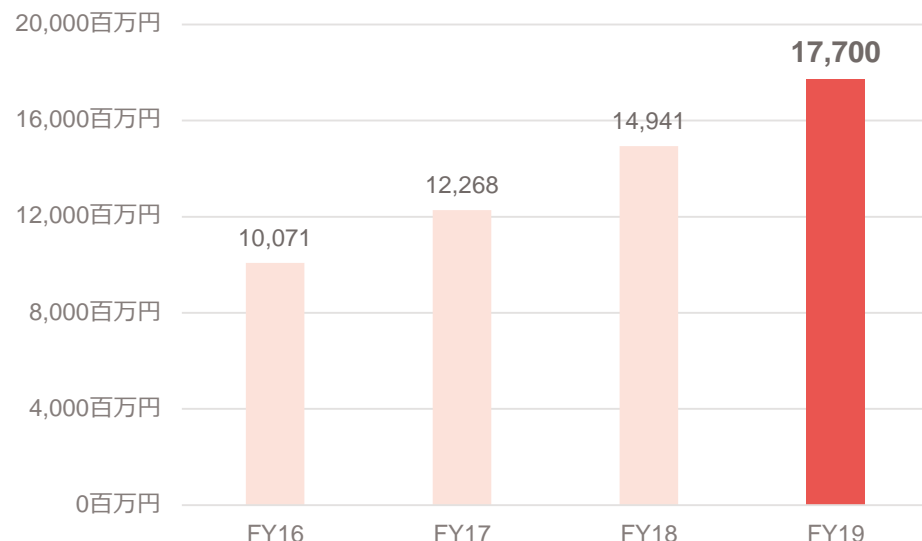


経常収益と調整後経常利益の増収・増益を今後も見込む

<経常収益>

好調な契約獲得を背景に、FY19は177億円を見込む。

※第一生命グループとの提携事業は構築段階であり、織り込んでいない。

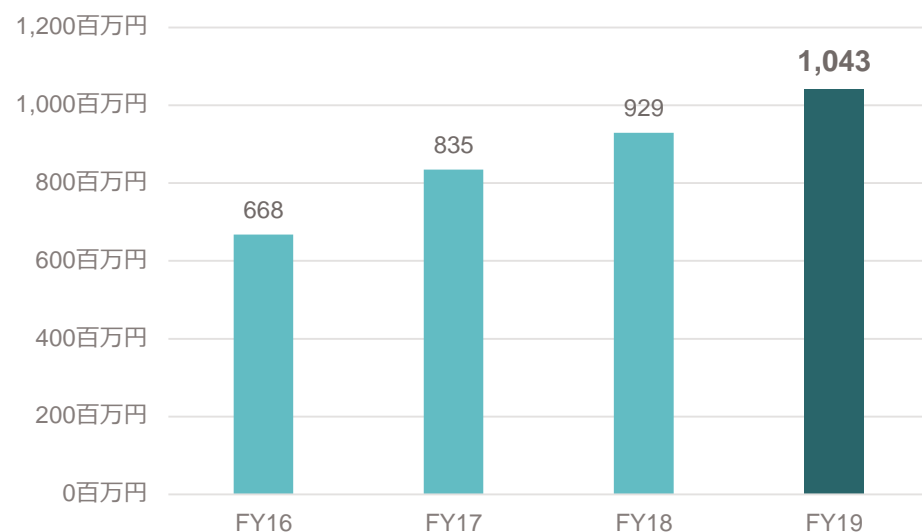


<調整後経常利益>

新規契約数増加に伴う新契約費増を見込む

一方、FY18同様、事業効率化により増益を継続する方針。

※第一生命グループとの提携事業は現時点で予測される費用を織り込んでいる。



その他の業績予想数値は以下の通り

なお、調整後当期純利益の推移は下記要素が加味されている。

- ・ FY17 : ①固定資産除却損 ②繰越欠損金の期限最終年度 → 133百万円
- ・ FY18 : ①和解金の受領 ②税額控除の適用 → ▲147百万円

(単位：百万円)

	FY17	FY18	FY19	前期比
経常収益	12,268	14,941	17,700	+18.5%
経常利益	444	453	480	+ 5.7%
当期純利益	▲81	963	330	▲65.7%
調整後経常利益	835	929	1,043	+12.3%
調整後当期純利益	309	815	735	▲ 9.9%
+ 上記要素の影響額	133	▲147	—	
= 影響除外後参考値	442	668	735	+10.0%

APPENDIX



(単位：百万円)

		FY17	FY18	FY19
Non-GAAP	A) 調整後経常利益 (= B + C)	835	929	1,043
	B) 経常利益	444	453	480
	C) 異常危険準備金影響額	391	475	563

- 当社は、経営者が意思決定する際に使用する社内指標（Non-GAAP：未経過保険料方式）と、日本基準（J-GAAP：初年度収支残方式）に基づく指標の双方で経営成績を開示*
- 経営管理用の利益指標として、調整後経常利益（= 未経過保険料方式の経常利益±異常危険準備金**影響額）を使用
- 異常危険準備金は、異常災害による損害の填補に備えるため、事業年度ごとに収入保険料に3.2%を乗じた金額を責任準備金として負債計上する必要がある（保険業法施行規則第70条1項2号）**
- 今後も業績予想は「Non-GAAP：未経過保険料方式」のみで開示

* 上場企業のうち、初年度収支残方式に基づく損害保険会社は当社以外は存在していない。

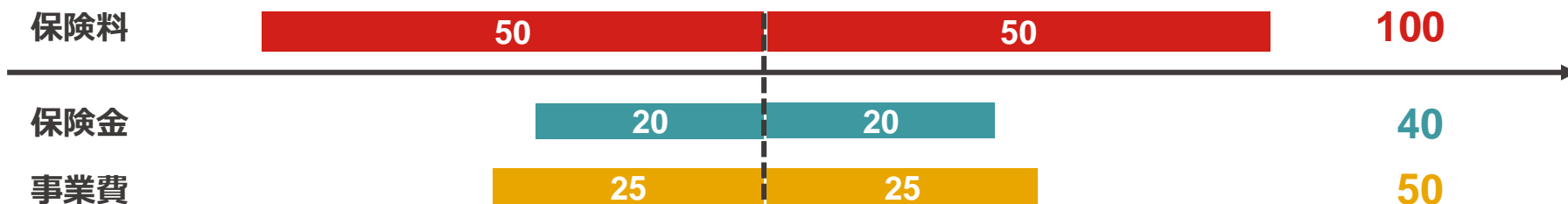
** 当社の損害率が大蔵省告示第232号第2条の別表で記載されている基準損害率50%を下回るため。

- ・損害保険会社は、普通責任準備金として未経過保険料残高と初年度収支残高の**いずれか大きい方**を負債計上する必要がある（保険業法施行規則第70条1項1号）
- ・当社は、初年度収支残高が未経過保険料残高を上回っているため、**制度会計上初年度収支残方式**によるが、経営管理上は、**発生主義**に即した**未経過保険料方式**を使用

初年度収支残方式と未経過保険料方式

[前提] ● 期中に一時払で100の入金、うち×1年度末での未経過保険料50
● 保険金、事業費はそれぞれ下図の通り

×1年度



初年度収支残方式

	×1年度	×2年度
保険料	100	0
保険金	20	20
事業費	25	25
差引	55	▲45
準備金	55	▲55
利益	0	10

初年度の利益は0

未経過保険料方式

	×1年度	×2年度
保険料	100	0
保険金	20	20
事業費	25	25
差引	55	▲45
準備金	50	▲50
利益	5	5

発生主義による利益

■ 将来見通しに関する注意事項

- ・ 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」 (forward-looking statements) を含みます。
- ・ これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- ・ それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- ・ 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合でも、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

本資料および当社IRに関するお問合せ先

アイペット損害保険 財務経理部

TEL : 03-5574-8615 E-mail : IR@ipet-ins.com

